

親子ちゃれんじ② ～目指せ匠！！釣り師と寿司職人～

- 1 趣 旨：地域の子育て支援として、幼児に関わる保護者の緩やかなコミュニティを創る。
親子で夢中になる機会を通して、お互いに楽しむ時間の大切さを感じる。
- 2 日 時：平成30年11月10日（土）13:00～11月11日（日）9:30
- 3 場 所：国立淡路青少年交流の家、淡路じゃのひれアウトドアリゾート
- 4 対 象：子どもとその保護者 25組、100名程度
- 5 参加者：30家族103名（保護者51名、子ども52名）
- 6 指導協力：淡路じゃのひれアウトドアリゾート（所在地：兵庫県南あわじ市）
株式会社 音羽（本社：大阪府豊中市）



7 プログラムの内容

11月10日（土）13:45 釣り体験！

淡路じゃのひれアウトドアリゾートにご協力いただき、家族で釣り体験を行った。海上に浮かぶ釣り堀の筏に乗りこみ、各家族に配布された釣り竿にエサをつけて、糸を垂らすと大きな鯛が喰らいつき、それを家族で一致団結して釣り上げた。参加している子どもの中には初めて釣りを体験する子も多く、鯛が糸を力強く引っ張る力に対して、竿を大きくしならせながら目一杯糸を引くなどして、釣りが持つ魅力の一つでもある、魚との駆け引きを十分に楽しんでた。また釣り上げた鯛から針を外す作業も、親子で声を弾ませながら行い、鯛を持って誇らしげにポーズを取る姿がとても印象的だった。

参加者からは「もっと釣りをしたかった。」「初めての釣り体験でこんな大きな魚が釣れて嬉しい。」「今度は別の魚を釣ってみたい。」などの声が聞かれ、釣りに興味を持った家族が多く見受けられた。



11月10日（土）16:00 寿司職人体験！

株式会社音羽にご協力いただき、釣り体験で釣った鯛を捌き、それを握り寿司にする寿司職人体験を行った。子どもたちは、調理着と帽子を着用して、恰好から職人になりきった。小さな職人の姿になった子どもたちと保護者を取り囲む中、職人の方が魚の捌き方の一つずつの動作を見せて、その後目の前にある魚を自分たちで捌いた。職人の方々の技が持つ本物の力は、小さな子どもから大人まで惹きつける要素がたくさんあったようで、皆真剣に興味深く見ながら、時には質問をしながら寿司づくりが進んでいった。

シャリと鯛の切り身を合わせて寿司を握った後は、職人さんが作った鯛のあら汁と一緒においしく食べた。



11月10日(土) 20:00 お楽しみレクリエーション

寿司職人体験が終わり入浴を済ませた後は、淡路うずしおフェスティバルに出演予定の、大阪府立大学奇術部の方によるジャグリングパフォーマンスを観覧した。

11月11日(日) 9:30 うずしおフェスティバル

2日目は、宿舍の清掃を各家族で終わらせ後、自主解散とし同日程で開催されている淡路うずしおフェスティバルへ参加してもらった。



8 参加者の声

- もっと釣りがかった。
- 釣った魚を捌くのが初めてで良かった。
- 子ども自身が釣り上げた魚をお寿司で食べた経験がとても良かった。
- 対象年齢を小学3年生までではなく、高校生ぐらいまで上げて良かったのでは。

9 所感

以前からイベント等で広報協力をお願いしている地元企業と、学生時代に当施設でボランティア活動を熱心に取り組み、株式会社音羽に就職した後にも協働の打診があり、今回の事業が実現した。これは今まで当施設が築きあげてきた地域との連携力と、積み上げてきたボランティア育成力の賜物だと考える。

また、釣り体験や寿司職人体験は参加者にとって自然という本物、人が繰り出す技の本物に触れられる機会であること、そして目の前で自分たちが釣り上げた魚を調理し、美味しく食べるというシンプルな流れではあるが、人の生理的欲求である「食べる」ことを満たした内容であったことから、参加者のプログラムに対する満足度は高かったと感じる。